

あとかき

本報告書は、昭和女子大学とベトナム文化情報省のベトナム民家調査を終了するに際し、その成果を公表するものである。調査は文部省科学研究費（国際共同研究）を得て、3省については1997～1998年度「ベトナム民家の保存と再生」、6省については1999～2001年度「ベトナム民家の体系的研究」、引き続き日本私学振興共済事業団学術研究振興補助金を得て、2省とランソン省タイ族調査及び周辺国調査は2002～2004年度「ベトナム民家の体系的研究」にて実施した。11省のうち、バクニン省・トゥアティエンフエ省・ドンナイ省は1999年度紀要Ⅴ（とりまとめ：昭和女子大学・篠崎正彦先生）、ナムディン省・タインホア省・ゲアン省・クアンナム省・クアンガイ省・ティエンザン省については2001年度紀要Ⅶ（とりまとめ：首都大学東京・山田幸正先生）に収録した。

紀要Ⅶにおいては、総論をもうけベトナム民家史について各研究者が試論を立てることを課題としたが、調査途上ということで全体像を把握するよりは研究的「論」が並列される形になった。紀要Ⅶのあとかきで「次回の報告では、何としてもベトナム民家史についての体系的試論を掲載したい。」と書いたが、今回これを実現できて幸いである。

今回、ベトナム民家についての全体像を把握できたのは、「しばらくは省単位の民家調査が実施されないため現データを分析するしかない」という状況が覚悟を決め分析させた最大の要因であろう。しかし、このことはベトナム民家史に新たなデータが加われば全体像が変わるということである。現在調査が終了した11省はベトナム全国の省の5分の1にも満たない。今後はベトナム側で民家調査を実施し、願わくは本研究を踏み台に、ベトナム民家史を確立されることを期待したい。

また、本ベトナム民家史研究に重要な意味をもった資料として、①並行して実施した民家文化財修復工事（ホイアン町並み保存プロジェクト・JICA 開発パートナー事業「ベトナム民家文化財保存修復技術向上計画」他）、②ベトナム少数民族民家調査、③周辺国民家調査、④フランス極東学院民俗学調査報告書などがあり、ベトナム研究者にもこれらのデータ収集と分析に使用しようとする視点を期待したい。

国際文化研究所の国際協力プロジェクトは、「ホイアンの町並み保存」「JICA 開発パートナー事業」とそれぞれ国際的な賞も受賞し、現在は新たなリビングヘリテージ保存の枠組み作りを目指し、考古学・歴史学・被服学・食品学などの学際的研究と保存協力事業である「ハティ省ドンラム村集落保存」を実施中である。並行して実施している国際協力プロジェクト「ハノイ36街区町並み保存」「ハノイ都市圏の住宅政策」、国際学際的共同研究「開発著しいハノイ都市圏の都心下町・郊外住宅地・近郊農村の生活近代化比較研究」も含めて、関係各位のご支援とご協力を賜りたい。

2006年3月

昭和女子大学	国際文化研究所
教授	友田博通
講師	マーク・チャン
事務	鈴木弘三